



畜産総合センターようふん通信

平成 30 年 10 月

◇在庫頭数について

W♀

生まれ月	在庫（頭）
1月	5
2月	22
3月	41
4月	46
5月	30

D♂

生まれ月	精液検査 済み（頭）	精液検査 未実施（頭）
1月	3	3
2月	14	6
3月	0	10
4月	0	13

10月1日時点の在庫頭数（見込み）は上記のとおりです。

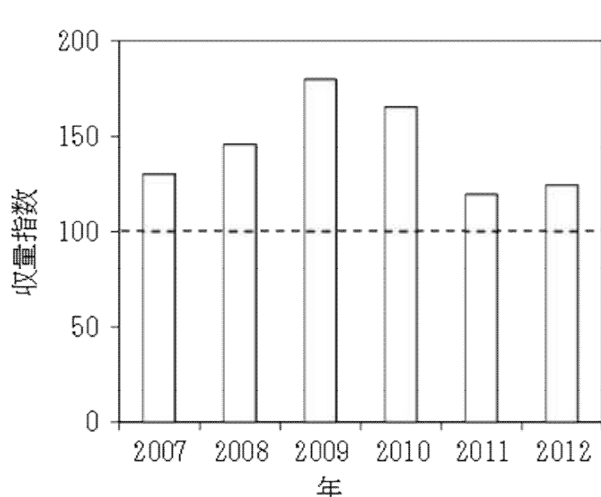
現在、譲渡待ちはなく、希望順に譲渡しておりますので、早めにご連絡いただければ幸いです。

○豚ふん堆肥の活用について

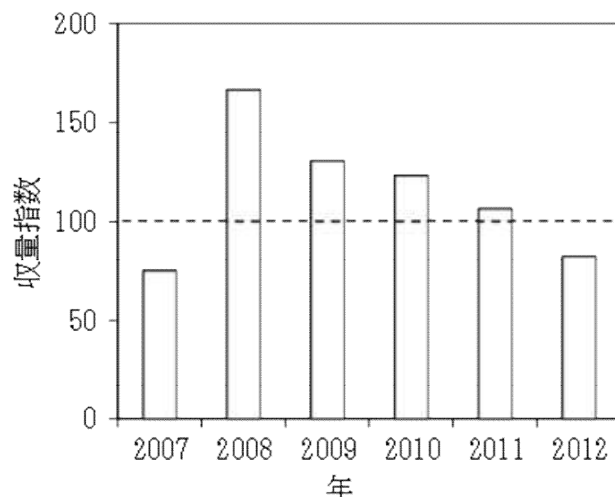
家畜ふん堆肥は、完熟たい肥として良質なものを生産すれば、作物の生育に必要な栄養素の補給や土壌物理性の改善など、土づくりに役立ちます。

近年、農業総合試験場環境基盤研究部にて、豚ふん堆肥の利用性に関する報告がありましたので紹介します。

豚ふん堆肥を施用し、冬作にキャベツ、夏作にスイートコーンを栽培したところ、豚ふん堆肥を施用した試験区では、堆肥を施用しない対照区よりも多収傾向が認められました。また、豚ふん堆肥は窒素やリンの含有量が高く、作物の窒素やリンの吸収量も対照区よりも多かったことから、化学肥料を代替できる可能性が示唆されました。



図：豚ふん堆肥を施用したときのキャベツ収量
※堆肥を施用しなかった対照区を 100 とする。



図：豚ふん堆肥を施用したときのスイートコーン収量
※堆肥を施用しなかった対照区を 100 とする。

耕種農家にとっての土壌は、畜産農家にとっての飼料と同じくらい重要なものです。良質な完熟堆肥の生産により、養豚業が地域に貢献していくことを期待します。

○イノシシ対策について

イノシシは豚に感染する多くの病原体を媒介する可能性があり、近年イノシシの頭数及び出現範囲が拡大していると言われる中、当所においても、改めてイノシシ対策の必要性を感じています。

皆さまの農場におかれましても対策を始められていることと存じますが、イノシシ対策の基本について紹介します。

①餌付け要因をなくす

- ・農場周辺からイノシシのエサとなるようなもの（収穫せず放任したままの果樹、残飯や生ごみ等）をなくす。

②隠れ場所をなくす

- ・草が生い茂った場所や竹ヤブなどにイノシシが隠れるため、農場周囲の草刈り等を行い「緩衝帯」を設ける。



図1 柵の外には通路や緩衝帯をつくる

③防護柵・電気柵等を設置する

- ・イノシシは運動能力及び学習能力が高いため、飛び越えられる可能性もある。イノシシに警戒心を与えることが重要であり、草刈り等により同時に緩衝帯も設けると効果的。
- ・場所によって適した方法が異なる。

例：電気柵…草刈等、漏電対策ができ、人がこまめに見回ることが出来る場所
※支柱の間隔等適切に設置し、破損・漏電（バッテリー故障の一因）等がないか定期的に確認することが大事。

ワイヤーメッシュ…上記以外の場所

※ワイヤー直径5mm以上のものが切れにくくお勧め。

※メッキしてあるものの方が耐久性は高いが、一般的に高価。

※高さは1.5m以上が望ましい。

（1mでもある程度効果があると言われているが、飛び越えられる可能性がある）

（連絡先）

◇畜産総合センター

：0564-21-0201